

# インディアナ日本語学校便り だいごう 第10号

令和6年6月22日事務所 317-255-1631 メール [ijls@indiana-j-school.net](mailto:ijls@indiana-j-school.net)

(HP) <http://www.indiana-j-school.net>

校長 森 勝義

## 朝、期待感の顔 帰り、充実感の顔

～おはよう・さようならの意味～

校長 森 勝義

今日で2024年度1学期が終了します。私自身、毎回楽しみにしているシーンがあります。

それは、

- ・子どもたちが重いランドセルやリュックを掛けながら、お友達と楽しそうに話しながら登校するシーン
- ・図書室に担任に連れられながら行き、帰りに大事そうに胸に2冊の本を抱えながら校長室の前を通り過ぎるシーン（ねこ一ちょうせんせいと言いながら通り過ぎる園児たち）
- ・授業中、元気よく手を挙げて先生の質問に答えるシーン
- ・中休みに、安全パトロールの保護者の方に見守られながら、思い切り遊んでいるシーン
- ・保護者の方が、丹精込めて作られたお弁当を持ってカフェテリアに行くシーン
- ・保護者の方々と一緒に、一日満足した顔で帰る子どもたちの顔を見る、お見送りのシーン
- ・先生方の子どもたちが帰った後、安堵の顔をされるシーン
- ・国際部の授業終わり、満足しながら帰る受講生

とにかく最高です。

私自身、なにか子どもたち、保護者の方々、先生方に毎回メッセージを残そうと考えています。学校だより、四字熟語、名言、そして猫写真。

42年の教師生活でこれほど充実している期はそうありません。なによりも子どもたちが現地校で必死に学校生活を送り、保護者の皆様も懸命にサポートしてらっしゃる姿を思い浮かべると頭が下がります。

今は日本語学校に笑顔が溢れています。本当にこの一学期、学校にかかわるすべての方々がお一人おひとり、子どものために、学校のために、そして保護者の方々、ご自身のために頑張っただけで、皆様、ご自身を誉めましょう。

保護者の会の役員の皆様をはじめ、ベル当番、バス当番、図書係、安全パトロール、救護、コピー係、国際部ボランティアなど、本当に多くの方々が日本語学校を支えてくださっています。私はインディアナ日本語学校に赴任できたこと、終生、同僚に自慢したいと思います。手前味噌かもしれませんが、あえてここで、日本語学校先生方の自慢をします。もし、わたしが同じ立場でしたら、到底できません。自分の仕事を持ちながら、なおかつ教えることに生きがいを感じ、毎回子どもたちのために、日本語を忘れてほしくないために、算数を理解してもらうために、それはそれは寝る時間を惜しんで教材研究をされ、授業に臨んでます。それを垣間見られたのが授業参観だと思います。

どうしても授業後、評価は個人についてまわります。日本語の理解が難しい子、しかし宿題、課題をしっかりとやってくる子、授業への臨む態度が前向きな子、そんな一途に頑張っている子どもたちを我が日本語学校の先生方はしっかりと見守ってくれています。

本日、渡される「学習の記録」の所見にはお子様への想い、期待、つれづれと書かれています。担任の率直な心の気持ち、ぜひ、受け止めて、お子様と共有してください。各担任の所見を読むたびに、若い自分を思い出します。